

NEWS ROOM

2018年4~5月のロジスティクスに関するニュースを中心に、さまざまな情報をコンパクトにお届けします。

アイカ工業 「西東京デポ」新設

化粧板・接着剤製造大手のアイカ工業は4月19日、東京都西部の日の出町に新たな配達拠点「西東京デポ」を開設すると発表した。首都圏で7カ所目。同24日にTC(通過型)センターとして運用を開始。圏央道の日出ICに隣接するなどアクセスの良さを生かし、従来は埼玉県の拠点が担ってきた西東京エリアの配達業務を移管して配達距離を短縮、ドライバーの負荷軽減とサービスレベル向上を図る。

運営は関東を地盤とする小野運送店(東京)に委託。夜間無人搬入システムを採用し、省人化を推進する。隣接する山梨県への定期配達も計画している。(藤原)



「西東京デポ」の外観
(アイカ工業提供)



ロジスティクスストレートニュース (荷主編)

ネットクリーニング会社 ソフトバンク系と集配提携

インターネットを活用した宅配クリーニングサービス「Line net」(リネット)を手掛けるホワイトプラス(東京)は4月18日、ソフトバンクグループの配送会社Magical Move(マジカルムーブ、東京)と提携し、早朝・深夜の集配を始めると発表した。同社が実際の業務を担う。1時間単位で受け付けるなど利便性を高め、クリーニング事業の競争力向上を図る。

マジカルムーブは早朝・深夜を専門とする宅配サービス「S catch!」(スキヤッチ)をネット通販事業者に提供。L.O H.A.C.O(ロハコ)や靴・アパレルのロコンド、バイク用品のWe bike(ウェビック)が利用している。(藤原)

食品グループ本社の食品メーカー15社は4月26日、全国規模の物流会社を2019年4月に発足させる契約を締結したと発表した。新会社には食品メーカー15社が出資。味の素物流を存続会社に現在のカゴメ物流サービス、ハウス物流サービス、F-LINE、九州F-LINEの事業を統合するとともに、商号をF-LINEへと変更する。新会社は食品メーカーが共同で展開しているF-LINEプロジェクトと連携し、食品企業物流プラットフォームの確立を目指して事業を展開していく。(石原)

き事項として、睡眠不足で安全運転できない危険がある場合の事業者への報告を新たに明記する。(藤原)

国内EC市場 17年のBtoCは16・5兆円に

経済産業省は4月25日、2017年の国内電子商取引(E-C)市場調査結果を公表した。

C)

BtoCは前年比9・1%増の16・5兆円、BtoBは9・0%増の317・2兆円に拡大したと推計。BtoCの物販EC化率は0・36ポイント上昇し5・79%となつた。

急拡大している個人間取引(CtoC)は、インターネットオーバークションが3・2%増の1兆1200億円、このうちCtoC部分は3・2%増の3569億円だった。フリマアプリは58.4%増の4835億円と利用が急速に広がっている。(藤原)



政府・業界団体・自治体編 睡眠不足の事故防止策 国土交通省が6月に強化

国土交通省は4月20日、バスやタクシー、トラックのドライバーが睡眠不足で事故を起こすのを防ぐための対策を強化すると発表した。旅客自動車運送事業運輸規則、貨物自動車運送事業輸送安全規則を今年6月1日付で改正。ドライバーを乗務させてはいけない理由に睡眠不足を加えるとともに、乗務前の点呼時に確認する事項として睡眠不足で安全運転に支障を來す恐れの有無を追加し、記録するよう定める。

さらにドライバーが順守すべ

き事項として、睡眠不足で安全運転できない危険がある場合の事業者への報告を新たに明記する。(藤原)

メートルとベトナム北部で最大規模。約3千平方メートルの保税倉庫を備えて輸出入貨物に対応するほか、高度のセキュリティシステムも採用。幅広い物流需要に対応できる体制を構築する。(藤原)

(藤原)



ベトナムの新たな物流センター(センコー提供)

持ち株会社体制移行 シーネット

WMS(倉庫管理システム)の開発・販売などを手掛けるシーネット(千葉県船橋市)は4月10日、株式移転による純粹持ち株会社「シーネットグループ」を同日設立したと発表した。シーネットは1992年の創業から物流分野に特化したシステムの提供で事業を拡大してきた。グループ全体を統括する持ち株会社の下に国内2社、海外3社(中国・北京、上海、タイ)を收めることで、各地の経済情勢や需 要動向を踏まえながら迅速な経